

「心のケア継続を」

AMDA

レイテ島地滑り現地報告

先月17日に起きたフィリピン・レイテ島地滑り災害で被災者支援活動を行った国際医療援助団体「AMDA」(本部・岡山市、菅波茂代表)が2日、同市で報告会を開いた。精神的ショックを受けた人が多く、「長期的な心のケアが必要」などと支援の継続を訴えた。

AMDAは日本のNGOでは最も早く災害発生翌日に現地入り。フィリピンでの援助実績があるNPO「金光教平和活動センター」(本部・岡山県金光町)や現地の医師らと協力し、27日まで被災地の南レイテ州・セントベルナルド町を中心

に、約20人で医薬品供給や診療をした。

報告会には菅波代表と現地で活動した医師、看護師らが出席。生存者には「自分だけ生き残った」「水浴びをしていたら家族が流された」「眠れない」など心の傷を訴える声が多いといい、数谷亨医師(36)「静岡県浜松市」は「けが人は少なかったが、今後うつ病などの症状が出てくるだろう」と話した。

住民のほとんどが農業で生計を立てており、糧を失って途方に暮れているという。支援は郵便振替(口座番号0125012140709、口座

名「AMDA」、通信欄に「レイテ島」と記入)で。
【植田憲尚】